

朝霧に光るドーバーを越えろ！
ラストチャンス「逆転」が待っている！
■戦史最大の謎、イギリス作戦に賭けた16人のコマンドーを大脱走の巨匠スタージンスが描くサスペンス大作「ドゥーン」



鷲は舞い降りた

（以下略）のマイケル・ケイン（マッシュ）のドナルド・サザーランド/ロバート・デュバル（2001年米軍への脱走）のジュニー・アガター/（大脱走）の監督ジョン・スタージンス
原作ジャック・ヒギンズ/（邦訳・早川書房刊）音楽ラロ・シフリン（セントラビ）セブンスター・レコード/カラー作品/米・英合作映画/東宝東和提供

MICHAEL CAINE DONALD SUTHERLAND ROBERT DUVAL in  THE EAGLE HAS LANDED a film of JOHN STURGES



■8月13日〈土曜〉よりロードショー

■国電有楽町 日比谷映画 (591) 5353

■歌舞伎町 新宿プラザ 劇場 (200) 9141

■関内馬車道 横浜東宝 (045) (641) 8531

■全米で33週間トップを 独走した超ベストセラー!

75年7月に発売されて以来、33週間にわたってベスト・セラーにランクされた同名小説のこれは完璧な映画化作品。未曾有のレコードをつくりだし、戦後ももっとも広くもっとも多く読まれた小説として原作者ジャック・ヒギンズのもとに映画化の話が殺到したという。なぜこんなに凄まじい反響を呼んだのだろうか。それはこの物語のドラマチックな写実構成と“真実か!フィクションか!”と叫ばれた歴史の二元性に依る。原作者は言う——「物語の半分は証拠のある歴史的事実です。残りの半分は観客が決めることです」



オール・ロケを敢行、かつてないスケールが多くの話題を集めている。主演は「遠すぎた橋」のマイケル・ケイン、「マッシュ」のドナルド・サザーランド、「ゴッドファーザー」のロバート・デュバルといった演技力満点の3大スター。全米興行者協会から“76年度明日のスター”の称号を得た「2300年未来への旅」のジュニー・アガターが共演している。

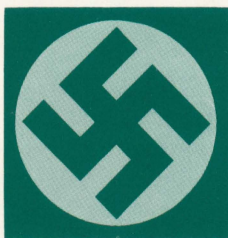
■今世紀最大の謎を白日の下 にさらし全世界で大ヒット!

1943年9月12日。ドイツ陸軍オットー・スコルツェニ大尉はイタリア中部の山頂に監禁されていた独裁者ムッソリーニの救出に成功した。これに気をよくしたヒトラーは親衛隊長官ヒムラーに新たな作戦命令を与えた。ヒトラーは軍情報局Z部第3課のラードル大佐に計画の立案を命じた。すべては極秘のうちに運ばれた。初めは不可能だと信じられていた計画がラードルの手の中で呼吸しはじめる。“イーグル作戦”——それは英首相チャーチル誘拐という途方もない戦略だったのだ。



■〔大脱走〕の巨匠スタージェスが帰ってきた!

私たちが学校で、あるいは本で知ってきた歴史…その巨大な激流のなかに呑みこまれた無数のできごと。隠された歴史は必ずあばかれる運命にあるとあって良いだろう。監督のジョン・スタージェスもこの原作に感動した一人。「大脱走」や「荒野の七人」で“男”のヒーロー的な生き死にを描き、「老人と海」「日本人の勲章」で“人間”の執念を描いた。アクション映画の“ルーツ”とまで呼ばれる彼が、歴史に奔られる男たちの鮮烈な生き方に共鳴したのも当然と言える。あの素晴らしい男たちが帰ってきた!

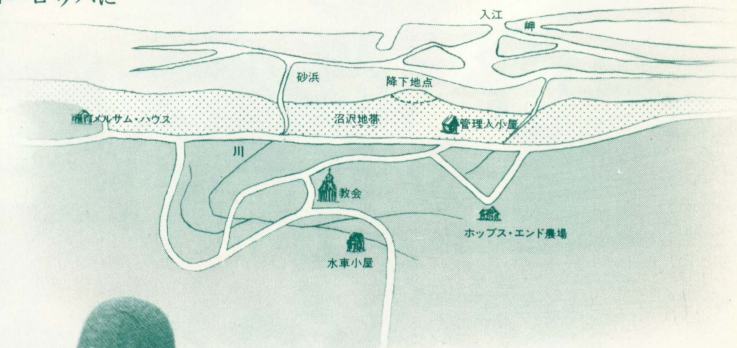


■戦争映画を超えた サスペンス・アドベンチャー!

祖国ドイツの運命を賭けて、そして男の〔逆転〕を賭けてラードルのもとに集められた男たち。歴戦の勇士でありながらユダヤ人を助けたために残忍な刑を受けた落下傘部隊長シュタイナー大佐。反英運動のリーダーでIRAの闘士アブリン。名誉や栄光のためでなく固い男の絆で結ばれたイーグルたちの心が太陽に向かって舞い昇る。彼らを待っているのは死かもしれない。あるいはむなししい男の夢かも知れない。だがラストチャンスに一縷の希望を抱いて——1943年11月6日午前1時、16名のイーグルはドーバーを越えた!

■破格のスケール! 豪華なキャスティング!

製作のI・T・Cは「カサンドラ・クロス」「ピンクパンサー2」などの大ヒット作を生み、いまや世界映画界注目のプロダクション。製作費600万ポンドを注ぎ込み、全ヨーロッパに



■不可能な計画を可能にさせた:
これは映画における
グレート・ヒストリーだ!
タイム誌(77・4・11号)

久しぶりにまこと爽やかな男性映画であった。いやそれは、男性のためのアクション映画というのではない。「男性」を描いて、太陽が登る、あの新鮮な爽やかさをもった映画であった。「大脱走」「荒野の七人」……いまあの素晴らしい男たちが帰ってきた。

〈映画評論家〉水野 晴郎



驚は舞いおりた THE EAGLE HAS LANDED

カラー作品 ■アメリカ・イギリス合作映画 ■東宝東和提供

